

足立十二寅薬師 (霊場めぐり)

浦和周辺の薬師札所は東西にふたつある⇒関東東向き寅薬師

御開帳 薬師如来の御開帳は寅年の4月初旬、桜の咲く頃に行われる。堂内の厨子が開かれ薬師様の手に善の紐が結ばれ、角塔婆に結ばれる。巡拝者はこの紐にふれることで秘仏と一体となり、ご利益が得られるという。 ※現在の札所の中には別の廃寺になった寺から移されたものもあります ※実施の年でも都合により御開帳されない札所もあります



足立十二寅薬師の札所の範囲
旧中山道の東側
さいたま市浦和区・緑区・南区
・川口市柳崎

※日にちなど確認してから、迷惑にならぬようめぐりましょう

施無畏印
(せむいいん)



薬師如来



薬師如来とは
サンスクリット語で「医者之长」という意味の名を持つ仏。正しくは薬師瑠璃光如来という、東方瑠璃光浄土の教主です。
まだ菩薩だった時代にたてた十二の大願のなかに、衆生を病から救うことが挙げられ、日本でも古くから、病氣平癒を願って多くの像が造られました。とくに眼病に霊験あらたかとされています。
像は右手に施無畏印、膝に載せた手に薬壺を持つのが基本の形です。
三尊像の場合、脇侍は日光、月光菩薩像。その他に十二神将があり干支を頭に乘せているところもあります。



薬師如来は寅年に御開帳